

大地の庭には落ち葉が舞い始め、薪が少しずつ積み始められる季節となりました。例年よりも長く流しそうめん台が活躍した今期。残暑が厳しかっただけに、余計、季節の流れを実感します。春先の大地の周囲のりんごの木の伐採後の緑の芝生、その先に佇む瓦屋根と漆喰の上溝桜の文庫。りんご畑の道を歩いて開ける光景は、以前と違う場所に来たように感じます。

運動会や子ども祭りのメインの集う場所も、この上の芝生広場が中心となりました。周囲から見ていると、ヨーロッパの別荘を彷彿させます。大人も子どもも幸せに集える世界をよりよく作り、改善し、保証していきたいと強く願わずに入れません。個人のエゴよりも周囲との調和を目指し、日々子ども達や環境と歩んでいきたいと思えます。

【怒濤の10月からの学び】



「大人と子どもの壁なんて最初から無かったんじゃないかと思わせてくれた素晴らしい人。小学生の頃に会えて良かった。本当におめでとう」

10月初旬に行われた大地旧スタッフ同士の結婚披露宴。大学生から現役園児まで200名以上開園時の保護者まで参加し、この2人の人気と人格を見せてくれました。冒頭の言葉は、長男が海外から贈ってくれたメッセージです。妻の思いは、ガクちゃん(旧スタッフ)は、誰にでも、子どもや幼児や乳児でも、同じスタンスで同じ人間として自然に友達として接し、尊厳を持って対してくれる心あるから、長男はそう思えたんだねと言っていた。私は、子供心を持っている素晴らしい奴と思っていただけに、その言葉から深い学びを得ました。長男は、子どもの世界も大好きで、きっと、ガクちゃんから大切なことを学んだのだろう。次男が年長児の時に、ガクちゃんは大地に就職し、この時の次男の誕生会では、次男は本気でガクちゃんと結婚したいと熱望していたことを思い出します。

「丁寧に地道に作り積み上げていくすばらしさと人間が自然に高揚していき つながる美しさ」

5日後に行われた子ども祭り。過去18回行われたお祭りで、前夜ゆったりと眠れて、当日は初めて昼食を食べれた記念すべき子ども祭り。先のガクちゃん達と、深夜1時位から星を見ながら準備を始め、流しそうめんを茹で続けた当時が思い出深い。

今回、朝靄の中、美しく仕上がったフォトフレームの写真を思いを持って見ながらゆったりと飾れた。そして、美しく丁寧に準備されていく光景。青空の中で笑顔と共に慌ただしさを感じさせず、各コーナーセンス良く作り飾られていく光景。どこのコーナーも美しく丁寧に飾られていた以上に、そこに集う人達の穏やかで幸せな笑顔はとても素晴らしい光景でした。大地の広場が幸せの空気が穏やかに流れていました。全ての人達が陰に日向になりながら、丁寧に地道に準備され思いを寄せて作り上げてきた過程、最後に皆で丸くなり歌い踊ったフィナーレ。大きな学びとなりました。本当に感謝です。

「だって、でも、しかしの言い訳はするな。」「自分の子どもは自分で責任をとれ。仕事に忙しいからと子どもから目を背けるな。人任せにするな。金のためだと言いつけるなら、仕事は辞める、サラ金からでも金を借りろ、それをしてでも、今、子どもとすべてを向き合え、子どもに全力を向ける・・・」

2日後に企画されたわらの家(重ね煮)の船越さんと宝地図の望月さんのセミナー。前日から総勢7名が大地で泊まり、レイキセミナーや打ち合わせでの会話で盛り上がり、当日のセミナーでの迫力ある船越さんの講演。娘から、船越さんはメッセンジャーとして、人を感動させる超一流の講演家であり、絶対聴くべきだと言われていたが、実際に耳を傾けると、久々に鳥肌が立ちました。冒頭の言葉は、その前後の状況は省略しますが、とても心に今でも響いています。

「ドリームメーカーになろう。その反対はドリームキラー」

24日に行われた「命の授業」の講演会。子ども達2人を連れて、初めて日曜日の午後トイゴという場所に出かけました。腰塚さんと言って中学の体育教師で、スキーで背骨を折り、首から下が不随になり何度も自殺を試み、夢を持ち4ヶ月で現場に復帰した人。望月さんの宝地図ムービーで1年位前から知っていたので、早速出かけました。顔以外全てが動かない事を自覚したとき、死を望み、自殺、自暴自棄になり心をとざした時、枕元の花を見て、動かない花は見る人に幸せを与えてくれている、自分はそんな花になれると思ひ、生きる希望を持った。ここから自分は生まれ変わり、人生が変わった。そして、この事故に感謝できるようになった。3月1日がスキー事故にあった日。だから、自分には誕生日が2日ある。「どうせ無理」「やっても無駄だ」と夢を諦めるドリームキラーではなく、「必ず出来る」「やってみよう、挑戦しよう」というドリームメーカーになろうという主張。深い学びです。

「努力に勝る天才は無し」息子の座右の言葉

9月から末っ子が走って新聞配達を始めた。朝4時半に星空の下、出かけていく。1時間後、小学校のグラウンドで、約1時間野球の練習。肘の手術のリハビリで復帰を目指し、計画的にメニューをこなす毎日。7時には、陸上の部活で中学へ。自分で決めたことだけに黙々と雨でも寒くても出かけていく。雨やこれからの寒さ雪の中、車で送っていきたいという親心が顔を覗かせるが、本人はクールで一切何も言わない。

子どもからの深い学び。

夢を持ち、歩んでいこう。怒濤の10月はまもなく終わる。